

第13回大口町地域交通推進会議（大口町地域公共交通会議）議事録

日時 平成28年2月16日

午後14時00分 開会

場所 大口町役場3階第5委員会室

◇出席委員

会長 廣島康裕 委員 伊藤 浩 委員 倉知敏美（職務代理者）
委員 佐藤弘信 委員 前田一紀 委員 酒井貞夫 委員 平井親一
委員 古橋靖弘（代理 渡邊） 委員 小久保信（代理 瀬古）
委員 水野文三（代理 小川） 委員 古田 寛 委員 松浦秀則
委員 工藤彰郎 委員 大森 滋

◇欠席委員

委員 近藤幸男 委員 大森邦代 委員 山田吉昭 委員 星野健一

◇出席職員

地域協働部長兼町民安全課長 鶴飼嗣孝
町民安全課 課長補佐 岩崎義宏
町民安全課 主事補 大胡田晃充

◇議 事

- 1 開会
進行 町民安全課課長補佐 岩崎
- 2 会長挨拶
- 3 町長挨拶
公務により挨拶後退室
- 4 職務代理者の選任
会長の指名により倉知委員
- 5 協議事項（詳細別紙）
 - (1) 大口町コミュニティバス事業報告
 - (2) 大口町コミュニティバス バス停名称変更について
 - (3) その他
- 6 閉会

◇協議内容

(1) 大口町コミュニティバス事業報告（平成26年度、平成27年4月～28年1月）

報告者：事務局 町民安全課主事補 大胡田

【配布資料に基づき報告】

■平成26年度大口町コミュニティバス事業報告

・昨年度のバス運行経費の町負担額

26年度の運行経費5634万7932円

運賃や運行支援費・広告料、県の補助金などの収入2052万7150円

→差し引いた3582万782円が町の負担金額となる

前年度と比べ町負担額は約310万円の増加

・運賃収入に関して

「一般運賃収入」現金での利用や、一日乗車券・回数券の販売売上からなる

「パスカード収入」各協定企業の利用者数に応じて発行し、月ごとに請求する上の二つの合計金額が「運賃収入」となる

一般運賃収入計 約19万円の減少（前年度比97.9%）

企業運賃収入 約180万円の減少（前年度比68.5%）

合計 約200万円の減少（前年度比86.4%）

・一般利用者数（下校バスを除いた人数）は平成25年度に比べ1万人以上減少

企業運賃収入が減少していることから、通勤利用者の減少がほとんどだと考えられる

→各時間帯やルート別での利用者数については、表のとおり。

・「コミュニティバスサポート隊」について

「コミュニティバスサポート隊」はコミュニティバス応援ボランティアを一般から募集しを結成。

月に1回の会議をおこない、バスの利便性向上や乗車数を増やすための企画を立案・実施

→26年度は、バスに乗って町内企業等の施設を見学に戻るバスツアー、町内のイベントの際にバスを利用するとスタンプを押してもらえるスタンプラリーを実施した。また、「バス停にベンチを設置してほしい」という意見を反映し、「県営住宅前」、「布袋駅」、「バロー前」、「丹羽広域事務組合前」の計4か所にベンチを設置した。

■平成27年度コミュニティバス実績報告（平成27年4月から平成28年1月まで）

・「運賃収入」について

回数券収入こそ微減しているが、現金収入、一日乗車券収入は前年度同時期比で増加

→合計である一般運賃収入計は約17万円の増加（前年度比102%）

年間乗車人数は増加傾向だが、企業収入は減少していることから、今後は企業からの収入を増やすことが課題の一つである。

・「広告収入」について

現在の見込みでは最終的に広告収入は約270万円を越え、前年度を上回ると思われる。

・「コミュニティバスサポート隊」の活動について

既設ベンチの維持管理に加え、「ヤマザキマザック東」、「東海理化前」の2か所に新たにベンチを設置し、合計6か所の設置となった。

また、バスツアーとスタンプラリーの企画を今年度も引き続き実施した。

<質疑応答>

・【廣島会長】企業からの収入はなぜ減っているのか。

→【大胡田主事補】パスカード利用者の減少は、繁忙期等の企業毎による理由が大きいため、はっきりとは分からない。

・【廣島会長】運行条件が各企業のニーズと合っていないのではないかと。

→【大胡田主事補】半年に一度、運行支援費のお話を協定企業にする際にダイヤ等についてのご意見は何っており、今年度は目立った意見は頂かなかった。

・【古田委員】平成27年度の利用者数や町負担額の目標が現状維持ともとれる数値に設定してあるが、もう少し目標を高くしても良いのでは。

→【大胡田主事補】利用者数や町負担額の最近の推移を見ると減少傾向にあるのと、利用者数が増える見込みも現在はたっていない。目標として前年度を越えたいとは思っている。

・【古田委員】資料1-1には活動計画の中で「乗車人数の増加と利便性の向上につなげる」と記載があるが、先ほどの回答からすると利用者を増加させる努力は行わないつもりなのか。

→【大胡田主事補】「コミュニティバスサポート隊」と利用者目線の環境改善等を行うことや、ダイヤ改正もその中の一つ的手段であると思っているが、企業・一般利用者からのダイヤ改正の意見がなかったため今回は改正に至らなかっただけである。

→【古田委員】ダイヤ改正のみが利用者増加につながるわけではなく、広報等の方法もあると思う。せっかく活動計画に乗車人数の増加などをうたっているのだから目標人数は現状維持ではなく、もっと高く掲げたほうが良いのではないかと。事務局として今後の方向性を伺いたい。

→【岩崎補佐】ご意見いただいた話は平成26年度の目標に対しての報告である。もちろん増加目標で進めるべきだと考えてはいるが、今年度はなかなか増加に繋げることが難しいと判断し、現状維持を目

標と設定した。

→【古田委員】だが、姿勢として増加目標は毎年掲げるべきではないのか。

→【岩崎補佐】当然増加させたいとは思っている。コミュニティバスサポート隊とともに利用者目線での環境改善を現在も進めている。

→【前田委員】大口町はもともと公共交通機関がなく、車文化が根強い。コミュニティバスサポート隊はその状況下でバスをもっと利用してもらうためにどうしたらよいのかを考え、活動している。今までの活動に加え、今後は免許返納者に対する支援ができないかと考えている。また、利用者が減った理由として昨年度工業団地のバス停が一つ廃止されたことが大きいと思われる。

・【廣島会長】バスの運行経費について、利便性を向上させるために負担額が増えるのは良いのか。町としてどれだけの金額までに抑えたいという町負担額の上限はあるか。

→【岩崎補佐】来年度以降、車両の更新があると思われ、運行経費は上昇すると見込んでいる。必要なものにお金をかける方向性であり、特に町の負担額に上限は設けていない。

→【廣島会長】議会では議論されているのか。

→【倉知委員】町負担額が増えても便数を増やしたらどうかという意見は出る。しかし、コミュニティバスサポート隊でとったアンケート結果からは現状でよいとの意見が多い。

→【大森副町長】現状ではコミュニティバス事業は壁にぶつかっているとは思いますが、広告収入やバス停の新設等の新たな切り口からの打開策を事務局は考えるべきである。町負担額を減らすのが議会や町民の理解を得る一つの方法だと思われる。

→【廣島会長】平均的な負担額に比べれば大口町は負担割合が低いほうである。

・【倉知委員】町民の車文化の意識を変えたいと思っているが、参考になるような先進的な取り組みを行っている地域はあるか廣島会長に教えていただきたい。

→【廣島会長】各市町によって状況が違うため何とも言えない。大口町の場合は企業との連携を上手く行っている点が特徴であり、他市町に比べ町負担額がかなり抑えられている。その抑えられている負担額分をサービスの向上へ回すべきで、今の段階で目標を現状維持に設定するのは特徴を活かしきれていないと思う。

・【廣島会長】昨年度の目標はどのようなものか。

→【岩崎補佐】資料のとおり。

・【廣島会長】資料にある一般利用というのは町民の利用ということか。

→【大胡田主事補】一般利用の数値は企業利用者を含めた数字である。下校バス的人数を一般利用に加えると利用者全体の数字となる。

(2) 大口町コミュニティバス バス停名称変更について

報告者：事務局 町民安全課 大胡田主事補

【配布資料に基づき説明】

■変更内容

つくしこどもクリニックが町外へ移転したことに伴い、「つくしこどもクリニック前」を「西小学校東」に名称を変更。変更開始時期は平成28年4月1日からで、広報おおぐち4月号、町HPへの記事掲載、バス車内におけるチラシなどで住民及びバス利用者に周知する。

<質疑応答>

- ・【瀬古氏（小久保委員代理）】 広報誌の配布時期はいつなのか。
- 【大森副町長】 3月25日には各家庭に届く予定。

(3) その他

■ドライブレコーダーの導入について

報告者：事務局 町民安全課 大胡田主事補

平成28年4月1日から全4車両にドライブレコーダーの導入を予定していることを口頭で説明。

■委員の任期について

事務局 町民安全課長 鶴飼

議員を除くすべての委員の任期が平成28年2月18日で満了となる。

事務局としては委員を継続していただきたいが、もし継続できない方がいたら事務局まで連絡をするよう依頼した。

■実績報告の資料について

- ・【瀬古氏（小久保委員代理）】 1便当たり何人乗車しているのかが分かる資料にしていただきたい。
- 【大胡田主事補】 次回の会議からは資料を用意する。